



コミュニティ・スクールだより

市Webへリンク

コミュニティ・スクールの取組を進める8つの重点項目の取組状況調査から

本市では、コミュニティ・スクールの取組を進めるため、8つの重点項目を設定しています。各学校の取組状況を調査し、今後の課題についてまとめました。

1 地域学校協働活動の推進

- (1) 児童生徒の地域貢献意識の向上をめざす学習を、総合的な学習の時間を核として明確に位置づけた学校・地域連携カリキュラムの実施
- (2) 「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の一体的な推進への教職員、保護者の理解浸透
- (3) 小中連携を主軸として、さらに幼保高など、幅広い校種・世代との協働活動の推進
- (4) 地域住民が訪れ、多様な協働活動が展開される大人の学び、交流の場としての学校づくりの促進
- (5) 地域学校協働活動推進員・地域学校協働本部（社会教育推進委員会）等との連携・協働

2 学校運営協議会の一層の充実

- (1) 幅広い児童生徒の参加・参画による熟議の一層の充実と学校課題解決の推進
- (2) 女性、若手など多様な地域人材の参画による協議会の活性化と継続的な人材育成

3 保護者・地域に届く情報発信の充実

- (1) 直接的・間接的な情報発信の工夫によるコミュニティ・スクールの取組の浸透

- 1(1) 今年度、全ての学校で地域と連携した協働活動が計画的に取り組まれています。地域教材を活用した学習の充実に向けて、今後も学校運営協議会の中でカリキュラムの実施状況と成果・課題を確認するとともに、取組の改善を進めていくことが大切です。
- 1(2) 全ての小・中学校で学校運営に携わる関係者の当事者意識や参画意識を高めるためのベースアップ研修を行い、また、学校や地域から積極的な情報発信を行ったことから教職員、保護者の理解浸透が進んでいます。今後は地域住民に対しても啓発を強化していく必要があります。
- 1(3) 近隣に幼稚園・保育園・高等学校がある小・中学校では、連携・協働する場面が増えてきており、高校生のボランティアを活用したり大学と連携したりする取組も見られるなど、これまでよりも幅広い交流が行われています。これまでの小・中学校が連携した取組を中心に、他校の事例も参考にしながら各校の実情に即した取組を進めていく必要があります。
- 1(4) 各学校で工夫した取組が見られ、学校教育支援ボランティアの実績数は、小・中学校ともに昨年度より増加しています。今後も協働活動や学校行事、講師を招いた授業などに地域住民に参加してもらうなど、学校が日常的に地域住民が訪れる場所となり、子どもたちとの交流や大人同士の学びや交流の場となるように継続して環境を整えていくことが大切です。
- 1(5) 地域学校協働活動推進員と社会教育推進委員会の活動内容や認知度が向上しています。今後、さらに両者の連携・協働を進めるために、他地区の先進事例などを参考に情報交換の場や研修の機会を増やすなど、充実した取組が行われるよう進めていく必要があります。
- 2(1) 全ての学校で学校運営協議会への児童生徒の参加・参画が展開されています。より多くの児童生徒が参加・参画できるように熟議のテーマによって参加者を変えたり、熟議の事前・事後の学習を工夫したりするなど、運営方法を充実させることが大切です。
- 2(2) 本年度は学校運営協議会委員の改選期ではありませんでしたが、協議内容によっては、委員だけでなくオブザーバーとしてPTA関係者や社会教育推進委員会委員、地域住民に参加を依頼している地区もあり、今後もコミュニティ・スクールへの理解を深め持続可能な活動にするために多様な地域人材が関わる協議会となるよう見直しを図っていく必要があります。
- 3(1) 学校間での取組の違いはありますが、学校のHPや学校便り、地域のHPやSNS、地区便り等を利用した情報発信のほか、ふれあいセンター内にコミュニティ・スクールの特設掲示板を設けるなど、新たな工夫を行う地域も見られるようになりました。学校と地域が連携し、それぞれの実情や役割分担も考えながら情報発信していくことが大切です。